

令和4年度 第6回 政策決定会議 会議録③

-
- ◆開催日時：令和4年12月27日（火） 13：35～14：10
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：市長、堤副市長、戎井副市長、大下教育長
 - ◆説明者：寺本財務部長、藤川財務部理事、小林行財政改革課長、滝石行財政改革担当主幹
-

◆審議事項

岸和田市新行財政改革プランの策定について・・・・・・・・・・行財政改革課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉本案3ページにあるように、岸和田市は、他市に比べ財政調整基金等の残高水準が低い。国や大阪府は税収が上がっているが、市町村は税目の性質から、好景気でも急激な税収の伸びにはつながらない。そのような中、将来への投資のためには行財政改革が重要である。

令和4年10月に策定された「令和4年度岸和田市財政計画」において、令和8年度以降は財政収支が非常に厳しい状況になるとの見通しが示されているが、市民病院や図書館の建替等これから必要となる事業費は織り込んでいない。財政はより厳しくなるのでその前に、行財政改革を推進し、改善を図る必要がある。

収支の改善は土地の売却益だけだと言われることがあるが、それは間違い。「令和4年度岸和田市財政計画」にも記載がなかったので本プランの2ページにおいて、それだけではなく、土地売却を除いた効果額が65億円以上あり、行財政改革効果全体の約6割を占めていることを明記してもらった。取組に応じた効果があり、市民の協力と職員の努力の結果であることを、誤解がないよう特に外部には強く説明してほしい。財政調整基金等の残高も令和3年度決算時点で新たに22億円以上の積み増しをしており、51億円を超えた。行財政改革取組前の平成29年度決算と比べ、約26億円の拡大。グラフでも目に見えて改善しているため、その成果をアピールしつつ進めてもらいたい。

大阪府内においては、「財政力指数」を見ても大阪市とその他市町村との格差が広がっている。岸和田市も大阪市の負けなように、必要なところに投資をし、「将来ビジョン・岸和田」を基に、世界に向けて羽ばたく岸和田をめざし進めてほしい。

〈戎井副市長〉今回のプランは、新たなサービスや体制の構築をめざすもので、「チャレンジする職員を応援し、頑張った者が報われる」人事・給与制度などかなりソフト面に踏み込んだものとなっている。ただ、新たなサービスや体制の具体的なアウトプットについて、適宜進捗管理を行い、オープンにしていくような体制を検討すること。

チャレンジする職員を応援し、若手の意欲を引き出すこと、新しい企画や業務を作れる若手を育成することは非常に良い。先日行われた行政課題実践研修の発表において、様々なアイデアが出ていてよかったが、彼らが実際に担当になったときに実践できるのか、自分が実際に行うとなると尻込みしてしまうことがあるのではないかと思う。失敗を恐れずチャレンジをすることが評価される組織をつくっていく必要がある。人材育成のためには、研修だけでなく、トライ＆エラーを繰り返し、場数を踏んでいく必要がある。管理職がしっかりマネジメントを行い、職員の企画を評価・改善し、ゴーサインを出せるような組織体制・組織風土を構築すること。

〈教 育 長〉財政運営の原則は「入るを量りて、出づるを制す」であり、冒頭に「創る改革」という記載があるため、企画課と連携し、「入るを増やす」行財政改革も進めてほしい。これは両課だけでなく全庁的に取り組む必要がある。戎井副市長のおっしゃった職員のチャレンジにつながっていくため、両面からの取組を進められたい。

〈市 長〉市長になった理由は行財政改革なので、一番の仕事だと思っている。市町村は税制度の問題もあり、税基盤が脆弱で、無力感との戦い。しかし、潤沢に資金があれば、限られた財源をいかに工夫して有効に使うかという知恵が育ちづらい。無力感と戦うことで培われる知恵やチームワークが我々の宝になる。それらをこの行財政改革の中で生み出してほしい。それがまさに「創る改革」につながる。

一番の課題は、市の職員全員で同じ思いを共有できるかどうか。財源がないから苦労するという捉え方ではなく、この厳しい環境下でこそ生まれてくるものを享受できるという前向きなムードを全庁的に共有し行財政改革を進めてほしい。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してほしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

令和 4 年 12 月 16 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 財務部部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市新行財政改革プランの策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	令和5年度から取り組む行財政の構造改革の基本方針と具体的な方策を示す「岸和田市新行財政改革プラン」の策定に向けて、現在庁内調整を進めている。今般、そのパブリックコメント案を取り纏めたので、その内容についてご審議いただくもの
説明者	財務部理事 藤川
	行財政改革課長 小林
	行財政改革課 主幹 滝石
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

付議会議	令和4年度 第6回会議
付議事項	岸和田市新行財政改革プランの策定について

★取組の目的

対象	市民、職員
どのような状態を目指す	岸和田市新行財政改革プランを策定し、今後取り組む行財政の構造改革の方針と具体的な方策を明らかにする。令和5年度以降、プランに掲げた取組を着実に実行し、機能的で効率的な行政運営体制の構築を図る。

★総合計画上の位置付け

202020201	基本目標	Ⅱ－2 適正で、分かりやすい行財政運営をする
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(2)持続可能な財政運営が行われている
	目指す成果	②計画的に財政運営が行われている
	行政の役割	ア 中長期の視野に立ち、効果的・効率的な財源配分を行う

★現状と課題

本市は、過去25年の間に3度もの大きな財政危機を繰り返すなど、財政面において構造的にぜい弱であるという課題を抱えていることから、引き続き行財政基盤の強化に取り組む必要がある。また、急激な人口減少と人口構造の変化、社会全体で進むデジタル化、公共施設・インフラの老朽化など、今後迎える社会経済環境の大きな変化に対応するため、市民サービスや行政運営体制を再構築する必要がある。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項		決算(見込額)		予算額	見込額				
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
岸和田市新行財政改革プランの進行管理					372	372	372	372	372
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源				372	372	372	372	372
	その他								
事業費		計			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
		1,860			372	372	372	372	372

★当該事項に関連する人員増の必要性※

人員増の必要性		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
有	無					

★取組の効果を表す指標

指標名		単位	R2年度	R3年度	R4年度	目標値				
						R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
①	経常収支の改善効果					単年度の経常収支改善効果額9億円以上の確保(令和12年度時点) ※ 令和7年度財政推計における令和12年度時点の収支において検証				
②										

※事業費及び人員を確約するものではない。